

学校図書館セット貸出し

ヨーロッパセット

Europe

小学校低学年向



国立国会図書館
国際子ども図書館

この冊子は、学校図書館セット貸出し「ヨーロッパセット」（小学校低学年向）の解説です。

児童生徒を指導する際の参考にご利用ください。

イギリスとアイルランドの昔話

石井桃子 編・訳 J.D.バトン 画
福音館書店 1981年

ジョーゼフ・ジェイコブスの編集・再話を中心としたイギリスの昔話22編と、アイルランドの昔話8編を集めた昔話集。子どもたちがよく知っている「三びきの子ブタ」をはじめ、ゆかいな話や少し怖い話、小人や妖精が出て来る話など、さまざまなタイプの話が入っている。語り（ストーリーテリング）のテキストとしてよく使われており、耳から聞いて楽しめる文章なので、子どもたちには読み聞かせるとよいだろう。

チムとゆうかなせんちょうさん

エドワード・アーディゾーニ 作 せたていじ 訳
福音館書店 2001年

イギリスの海辺の町に暮らすチム少年は、船乗りになりたくてたまらず、出航直前の船に忍び込む。洋上で密航者としてつかまってしまうが、船員の手伝いをするうちに、いつしか船乗りとして認められる。勢いのある線画と渋い色彩の絵により、船での暮らしが生き生きと描きだされる。海の色は、冷たいイギリスの海を思わせる深い緑がかった青色。続編に『チムとルーシーとかいぞく』*、『チム、ジンジャーをたすける』*等全11巻が出版されている。

*:セットには含まれておりません。お近くの公共図書館等をご利用ください。

ピーターラビットのおはなし

ビアトリクス・ポター さく・え いしいももこ やく
福音館書店 1971年

The tale of Peter Rabbit (英語)

Beatrix Potter
F. Warne 1995

イギリスで出版されてから100年以上を経た今も、世界中の子どもたちを魅了しているいたずらなうさぎピーターのお話。マクレガーさんの畑にもぐりこんだピーターは、マクレガーさんに見つかってしまい、命からがら脱出する。著者のビアトリクス・ポターは、少女時代から田園を愛し、小動物の観察やスケッチに没頭した。そのため、ポターが描く小動物は、かわいらしいだけでなく、動きもリアルに再現されており、

とても生き生きとしている。

子どもに語るグリムの昔話 1

グリム 著 佐々梨代子, 野村滋 訳
こぐま社 1990年

ドイツのグリム兄弟が収集、再話した昔話集から、日本の子どもたちに実際に語って喜ばれたお話を選りすぐった全6巻のシリーズ。その第1巻である本書は、「おおかみと七ひきの子やぎ」をはじめ、全12話を収録。原書に忠実な訳文であることに加え、子どもたちにわかりやすい表現が可能な限り使われており、語りや読み聞かせに向く。巻末には、実際のお話会での聞き手の反応が紹介されており、語りや読み聞かせを行う上で参考になる。

ねっこぼっこ

ジビュレ・フォン・オルファース 作 秦理絵子 訳
平凡社 2005年

1906年の出版以来、1世紀以上に渡り子どもたちから愛され続けてきたドイツの古典絵本。ねっこぼっこ(直訳すると「根っこの子どもたち」)は、春の訪れと共に土の中で目覚め、色とりどりの花の服を身にまとい、外の世界へと出て行く。輝かしい夏を謳歌し、やがて木枯らしが吹き始めると、大地の母さんのふところに戻り、再び春が廻り来るまでの間、土の中で安らかに眠る。擬人化された植物の四季に、喜びと安らぎに彩られた幸せな子どもの日々のイメージが重なる。詩的で美しい訳文は、音読することによって耳にいつそう心地よく響く。作者のオルファースは1916年に34歳の若さでこの世を去ったが、彼女のどの作品もドイツ古典絵本の傑作として今も読み継がれている。

もじゃもじゃペーター

ハインリッヒ・ホフマン さく ささきたづこ やく
ほるぷ出版 1985年

Der Struwwelpeter oder lustige Geschichten und drollige Bilder (ドイツ語)

Heinrich Hoffmann
Insel Verlag 1985

1845年にドイツで出版されて以来、ヨーロッパ圏内のみならず、世界中の子どもたちから愛され続けている古典的絵本。ドイツの子どもはみなこの本を読んで育つ、と言っても過言ではない。一見すると「少々刺激の強すぎる」教育的絵本のようにも見えるが、いたずら心いっぱいのありのままの子どもの姿が、デフォルメされた素朴な線画で描かれており、不思議と子どもたちの心をとらえてはなさない。表題作はじめ、軽快な韻文の10編の作品からなる。

大どろぼうホッツェンプロッツ

オトフリート・プロイスラー 作 中村浩三 訳 F.G.トリップ 絵
偕成社 1966年

カスパールのおばあさんの、歌を奏でるコーヒーひきが盗まれた。カスパールとゼッペルの二人の少年は、大どろぼうホッツェンプロッツを追って大冒険をする。起伏に富んだストーリーが読者を引きつける。続編に、『大どろぼうホッツェンプロッツふたたびあらわる』*、『大どろぼうホッツェンプロッツ：三たびあらわる』*がある。

*：セットには含まれておりません。お近くの公共図書館等をご利用ください。

大雪

ゼリーナ・ヘンツ 文 アロワ・カリジェ 絵 生野幸吉 訳
岩波書店 1992年

スイスの山村を舞台に、子どもたちの生活が生き生きと描かれた絵本。スイス中東部の山村で生まれたアロイス（アロワ）・カリジェは、画家の道へと進むうち、ゼリーナ・ヘンツと出会う。この2人の共同作業でつくられた『ウルスリのすず』*、『フルリーナと山の鳥』*、『大雪』は、スイスの豊かな自然を表現しながら、子どもたちの遊び、習慣などを伝えるものとなっている。

*：セットには含まれておりません。お近くの公共図書館等をご利用ください。

こねこのぴっち

ハンス・フィッシャー 文・絵 石井桃子 訳
岩波書店 1987年

ほかのこねこたちは「ぜんぜんちがうこと」がしたいぴっちは、兄弟からひとり離れて、あひると一緒に池に飛びこんだり、うさぎ小屋に

家出をしたり。そんなぴっちを家族や仲間の動物たちは温かく見守る。フィッシャーはスイスで最も有名な絵本作家の一人。弾むようなリズムカルな曲線で描かれたイラストは、スイスの小学校の国語教科書にも採用されている。ぴっちが登場するお話には、他に『たんじょうび』*（福音館書店）がある。

*：セットには含まれておりません。お近くの公共図書館等をご利用ください。

なまけものの王さまとかしこい王女のお話

ミラ・ローベ 作 ズージ・ヴァイゲル 絵 佐々木田鶴子 訳
徳間書店 2001年

ナニモセン五世という、食べることと眠ることが大好きな王様が病気になる。娘のピンピは、大好きなパパに再び元気を取りもどすために、羊飼いのおじいさんが教えてくれた方法を試そうと知恵をめぐらせるが…。ともすれば説教くさくなる「自分のことより人が先」という考えを、ユーモアあふれるお話で伝える。食文化が豊かなオーストリアならではの、豪華なご馳走の数々も魅力的。作者のミラ・ローベは、数々の国際的な賞を受賞したオーストリアの作家。

ラチとらいおん

マレーク・ベロニカ 文・絵 とくながやすもと 訳
福音館書店 1965年

弱虫な男の子ラチのところに、ある日小さな赤いらいおんが現れる。らいおんに励まされながら、ラチは次第に強い男の子になっていくが、やがてらいおんがラチのもとを去る日がやってくる。邦訳されてから40年以上読み継がれているハンガリーの創作絵本。版型が小さいので読み聞かせに使う場合は少人数で行うとよい。

りんごのき

エドアルド・ペチシカ 文 うちだりさこ やく
ヘレナ・ズマトリーコバー エ
福音館書店 1972年

小さな男の子マルチンが庭のりんごの木に実がなるまでの1年間をととても楽しみに過ごす様子を描いた、季節感のあるチェコの創作絵本。漢字の使われていない平易な訳文、色調の柔らかい絵、子どもたちの小さ

な手にじっくり収まるほどよい版型なので、思い思いに手にとって見たり、友だちと一緒に覗き込んだりして楽しんでほしい。

長い長いお医者さんの話

カレル・チャペック 作 中野好夫 訳

岩波書店 2000年

チェコを代表する国民的作家カレル・チャペックによる童話集。チェコでは1931年に出版されている。「長い長いお医者さんの話」や「郵便屋さんの話」など楽しいおとぎ話9編を収録。挿絵は、画家としても有名な兄のヨゼフ・チャペックで、線画で描かれた人物の表情が愉快で楽しい。カレル・チャペックの文学作品は、戯曲、随筆、旅行記など多岐にわたり、代表作『R.U.R.』や『山椒魚戦争』はSFの古典とされている。またチェコ語の労働を意味する言葉から作った「ロボット」という言葉は世界中に定着した。

千びきのうさぎと牧童

ポラジンスカ 文 内田莉沙子 訳 M.ブィリーナ 絵

岩波書店 1972年

ポーランドの昔話集。ポーランドの民間伝承を研究し、昔話やわらべうたなど多くの作品を書きのこしたポラジンスカの昔話集から、7つの話を選び、翻訳したもの。表題の「千びきのうさぎと牧童」は、通りすがりの老人に親切を施した心優しい若者が、老人から授けられた3つの贈り物を用いて殿さまが命じた課題をやり遂げ、さらには自分自身の機知によって幸福をつかむという話。挿絵もポーランド人の画家による。

ぞうのババール

ジャン・ド・ブリュノフ さく やがわすみこ やく

評論社 1988年

Histoire de Babar, le petit elephant (フランス語)

Jean de Brunhoff

Hachette 1939

70年以上読み継がれているフランスの創作絵本。ぞうのババールは、お母さんを亡くし、狩人に追われて、やっとのことで町にたどり着く。そこで一人の優しいおばあさんと出会い、洋服を着たり、車の運転を覚

えたりと、人間のような生活を始める。他に『ババールのしんこんりょう』*などがシリーズで出版されている。息子のロラン・ド・ブリュノフが書き継いだ続編もある。

*:セットには含まれておりません。

おそうじをおぼえたがらないりすのゲルランゲ

ジャンヌ・ロッシュ=マゾン さく 山口智子 やく 堀内誠一 え

福音館書店 1973年

子リスのゲルランゲは、自分のきれいで立派なしっぽを汚すのがいやでおそうじを覚えようとしないので、おばあさんリスに追い出されてしまう。オオカミに食べられそうになっても、おそうじだけは覚えないと強情を張るゲルランゲに、オオカミやキツネ、アナグマたちはほとんど困り果ててしまい…。フランスの創作幼年童話。続編に『けっこんをしたがらないりすのゲルランゲ』*がある。

*:セットには含まれておりません。お近くの公共図書館等をご利用ください。

きつねのルナール

レオポルド・ショヴォー 編 山脇百合子 訳・絵

福音館書店 2002年

12世紀後半のフランスで、僧侶や多くの書き手によって作りあげられた動物叙事詩。きつねのルナールは、自分と家族の食料確保のために日々獲物を探す。ライバルの狼や山猫とは、一見協力体制を築きながらも、すきあらば出し抜かんとし、食料となる小動物や人間とも騙しあい続ける様を生き生きと描き出す。中世のベストセラーであるこの作品は、次々と続編が作られ、後世の作品にも多大な影響を与えた。巻末には、中世の本作りの様子を含む詳しい解説が掲載されている。

黒い島のひみつ

エルジェ 作 川口恵子 訳

福音館書店 1983年

少年記者タンタンが愛犬スノーウィと共にアメリカ、アフリカ、アジア、北極、果ては月までも駆け巡る「タンタンの冒険旅行」シリーズ日本語版の第1巻。1929年、ベルギーの新聞記者エルジェによって生み出されたタンタンは、フランス語圏であるベルギー、フランスという枠

をこえ、50以上の言語に翻訳され、世界の子どもたちに愛され続けている。『黒い島のひみつ』の舞台はスコットランド。ニセ札偽造団を追うタンタンはスコットランド沖の黒い島へと向かう。

フィーンチェのあかいキックボード

ペッツィー・バックス さく のざかえつこ やく
BL出版 2000年

シュツ、シュツ、シューーン。赤いキックボードに乗って颯爽と街中を走り抜ける少女フィーンチェ。運河にかかった橋で買い物袋をさげたおじさんにぶつかり、荷物はバラバラに。拾い忘れたクッキーの袋を届けるため、フィーンチェはおじさんを追いかける。オランダの首都アムステルダムは水の都として有名。市内には160本以上の運河があり、1,300近くの橋がかかっているという。本書では、そんなオランダのとある街の様子を随所に見ることができる。

イップとヤネケ

アニー・M.G.シュミット 作 フィープ・ヴェステンドルフ 絵
西村由美 訳
岩波書店 2004年

オランダに住む子どもたちイップとヤネケの日常を描いた創作幼年童話。原作は、1952年からオランダの新聞の子どもコーナーに連載されていたお話で、「オランダの家庭にこの本のない子ども部屋はない」と言われるくらい今でもオランダ中で読み継がれている。本書は、オランダ語の原作約240話のうち42話を選んで訳出したもの。新聞連載であったために、白黒の影絵で描かれた挿絵が印象的である。著者のシュミットは国際アンデルセン賞をはじめ数々の賞に輝いている。

ポルコさまちえばなし

R.ディヴィス 文 F.アイヘンバーグ 絵 瀬田貞二 訳
岩波書店 1964年

スペインを旅行中のアメリカ人の著者が、道中で知り合いになったスペイン人のおばあさんから聞いた昔話をまとめたおはなし集。けものを治めるブタのポルコさまは、人間とけもの間に入ってさまざまな事件を解決する。心優しいポルコさまの見事な采配に人間も動物も納得する。

「人間の言葉を話す犬の話」など9つのお話を収録。

子どもに語るイタリアの昔話

剣持弘子 訳・再話
こぐま社 2003年

地中海に囲まれ、外国との行き来が船を中心になされてきたイタリアでは、オリエント（東方）の香り漂う昔話が数多く語り継がれている。本書では、19世紀の民話資料集と新しい民話資料集の中から、陽気で人情味にあふれるイタリアの昔話15編を収録。特にこれまで紹介されることの少なかった、小さい子どもたちでも楽しめるお話が収録されており、語りや読み聞かせに向く。

ピノッキオのぼうけん

C・コルローディ 作 安藤美紀夫 訳 白井都 画
福音館書店 1970年

ジェppettoじいさんは、「言葉を話す丸太棒」を彫ってあやつり人形を作った。ピノッキオと名づけられたその人形は、いつも周りの誘惑に負け、いたずらや失敗を繰り返してしまう。追い剥ぎにあつて樫の木の枝に吊るされたり、遊び呆けてロバになってしまったりと、幾度も身の危険にさらされる。けれども、妖精の助けもあつて最後には改心し、願いどおり人間の子どもの姿になる。世界中の子どもたちの心をとりにするイタリアの代表的児童文学作品。完訳版。

ロシアの昔話

内田莉沙子 編訳 タチャーナ・マブリナ 画
福音館書店 1989年

「おおきなかぶ」の名訳で知られる内田莉沙子が、編集・翻訳ともに手がけたロシア昔話集。33編の話は、ロシアの昔話に詳しい編者が、各再話者の特性を知り抜いたうえで、語り口の異なる複数の話の中から選んだもの。国際アンデルセン賞受賞画家のマーヴリナ（マブリナ）が挿絵を添えている。1,2編ずつ読み聞かせして、子どもたちが耳から親しむようにするとよいだろう。

メルヘン・アルファベット

タチャーナ・マーヴリナ 作 田中友子 訳・文
ネット武蔵野 2005年

ロシア語キリル文字のアルファベット 33文字に、ロシアの昔話の主人公や場面が色鮮やかに描きこまれたABC絵本。巻末には各昔話のあらすじが付されている。作者は『ロシアの昔話』*の挿絵も手がけた国際アンデルセン賞受賞画家、マーヴリナである。本書は高度な印刷技術を持つモスクワ造幣局で印刷された原本を忠実に再現しているため、美術的な価値も高い。キリル文字に親しめるだけでなく、ロシアの豊かな文化に興味を持つきっかけともなる1冊。

*:セットに含まれております。

しずかなおはなし

サムイル・マルシャーク 文 ウラジミール・レーベデフ 絵
うちだりさこ 訳
福音館書店 1963年

夜、散歩に出かけたハリネズミの親子がオオカミに遭遇する。ロシア絵本の黄金コンビと言われる2人の後期の作品。革命後のロシアでは、子どもたちの教育のためと識字率をあげるために多くの絵本が出版された。初期には、既成の芸術を否定した斬新でデザイン的な絵本が出版されたが、その後のスターリンの独裁政治下で、社会主義リアリズムがすべての芸術の表現方法として規定され、レーベデフも本書のような叙情的なスタイルに画風を変えた。この絵本には、新たなレーベデフの魅力があふれている。また、詩人でもあるマルシャークの文を内田莉莎子が思わず声に出したくなるような文体で翻訳した。

てぶくろ

エフゲーニ・M.ラチョフ 絵 うちだりさこ 訳
福音館書店 1965年

1965年に日本で翻訳出版されて以来、多くの子どもたちから愛され続けているウクライナの昔話絵本。おじいさんが落としていった片方だけの手袋に、動物たちが次々と住みついていくというシンプルなお話。降り積もる雪や空の色の移り変わりが示す時の経過、手袋が少しずつ住み心地よいように工夫されていく様子など、絵のすみずみまでじっくりと楽しんでもらいたい。柔らかな温もりのあるラチョフの絵からは、動物

たちの毛皮の感触まで伝わってきそうである。

子どもに語る北欧の昔話

福井信子、湯沢朱実 編訳
こぐま社 2001年

北風に粉をさらわれた男の子が、北風のもとに取り返しに行き、粉の代わりにご馳走を出してくれるテーブルかけをもらう「北風をたずねていった男の子」他、北欧5か国の昔話15話を収録。

ゆきとトナカイのうた

ボディル・ハグブリンク 作・絵 山内清子 訳
ポプラ社 2001年

スカンジナビア半島からロシア領にかけての北極圏の一角をラップランドと呼び、ここにはサーメ語を使う人々であるサーメが住んでいる。この地域に住むサーメの主人公マリット・インガの生活を通して、トナカイを育てその群れと行動を共にするというサーメの伝統的な暮らしの様子を知ることができる。ノルウェーの絵本。

さびしがりやのクニット

トーベ・ヤンソン 作・絵 渡部翠 訳
講談社 1991年

Vem ska trosta knyttet? (スウェーデン語)

Tove Jansson
Schildts Forlag 1999

小さな家に住む小さなトロールのクニットは、ひとりぼっちでさびしくて旅に出る。クニットはびんに入った手紙を拾い、送り主のスクルットをなぐさめるために勇気を出して冒険をする。フィンランドの作家トーベ・ヤンソンが書いたムーミンのシリーズは世界中で読まれている。1960年に発表された本書はムーミン絵本の2冊目で、他に『それからどうなるの?』* (講談社)、『ムーミン谷へのふしぎな旅』* (講談社)がある。著者は国際アンデルセン賞をはじめ多くの賞を受賞している。

*:セットには含まれておりません。お近くの公共図書館等をご利用ください。

きみどこへゆくのか?—スウェーデンの子どものうた—

アリス・テグネール 作詞・作曲 エルサ・ベスコフ 絵

ゆもとかずみ 訳詞

徳間書房 2005年

「スウェーデンの子どもの歌の母」と呼ばれるアリス・テグネール作の歌に、同国を代表する絵本作家エルサ・ベスコフが絵を添えた歌の絵本。スウェーデンで今も歌われている曲を中心に、全12曲を収録。全曲楽譜付。太陽が沈まぬ北欧の夏至や、クリスマスの風習、豊かな自然の中で暮らす子どもたちの姿が、歌詞や絵を通じて生き生きと伝わってくる。1922年の刊行以来、世代をこえてスウェーデンで愛され続けている絵本の初邦訳。

長くつ下のピッピ

アストリッド・リンドグレーン 作 大塚勇三 訳 桜井誠 絵

岩波書店 1964年

スウェーデンの児童文学作家リンドグレーンの代表作。1945年の発表以来、スウェーデンの子どもたちから熱烈な歓迎を受け、今なお世界中の子どもを魅了しつづけている。両親の遺した家で一人暮らしをはじめた9歳の少女ピッピの奇想天外な毎日を描いた空想力あふれる楽しいお話。続編に『ピッピ船にのる』*、『ピッピ南の島へ』*がある。

*: セットには含まれておりません。お近くの公共図書館等をご利用ください。

スプーンおばさんちいさくなる

アルフ・プリョイセン さく ビョーン・ベルイ え

おおつかゆうぞう やく

偕成社 1979年

ある日突然、ティースプーンくらいに小さくなってしまったおばさんの楽しいお話。ノルウェーの児童文学作家であるアルフ・プリョイセンは歌手でもあり、ノルウェーの人たちに今でも広く親しまれている詩や歌を数多く書き残している。日本でスプーンおばさんといえば、スウェーデンの画家ビョーン・ベルイの絵がなじみ深い。ノルウェーではノルウェーの画家ボルグヒル・ルーが描いたスプーンおばさんの本が出版されている。

あおい目のこねこ

エゴン・マチーセン 作・絵 せたていじ 訳

福音館書店 1965年

小さな青い目のこねこが、ねずみの国を探しに出かける。洞穴のなかで大きな目玉に出くわしたり、黄色い目のねこたちに仲間はずれにされたり、次々と難関にぶつかる。そのたびに「なーになんでもないさ」と元気に旅を続け、ついにねずみの国を見つける。しゃれたシンプルな絵が、元気なこねこの冒険を生き生きと物語る。デンマークの絵本。

親指姫（アンデルセンの童話 1）

H.C.アンデルセン 作 大塚勇三 編・訳

イブ・スピング・オルセン 画

福音館書店 1992年

デンマークを代表する童話作家アンデルセン。本書は、数ある彼の作品の中から、子どもたちに届けたいものを訳者が選び編集した『アンデルセンの童話』全4冊の第1巻。表題作の他、「皇帝の新しい服」、「ナイチンゲール」など全18話を収録。国際アンデルセン賞画家賞を受賞したオルセンのダイナミックな挿絵が物語を引き立てている。総ルビのため、低学年の子どもたちにも読みやすいだろう。

いちばんたいせつなもの

八百板洋子 編・訳 ルディ・スコチル 画

福音館書店 2007年

バルカン地域に位置するブルガリア、ルーマニア、スロベニア、クロアチア、セルビア、アルバニア、マケドニア、トルコ、ギリシアの昔話全29話を収録した昔話集。オリエントとヨーロッパの文化が混じりあうバルカン地域は、変化に富んだ昔話の宝庫である。本書には、原資料を翻訳した話のほか、著者自らが現地で採録した話が10話含まれている。スロベニア生まれの画家ルディ・スコチルの挿絵は、バルカンの雰囲気をよく伝えている。

りこうなおきさき

モーゼス・ガスター 文 光吉夏弥 訳 太田大八 絵

岩波書店 1963年

ルーマニアで長く語り継がれてきた昔話13話を集めた昔話集。本のタイトルにもなっている「りこうなおきさき」は、大臣の娘が王様の出

す難しい問題を次々に解決していくという、機知にあふれた謎解きが楽しいお話。読み聞かせに向き、図書館のお話会などで素話（ストーリーテリング）として語られることも多い。ルビがしっかりとふられているので、子どもたちにとっても読みやすい。

コールデコットの絵本（オリジナル復刻版）

福音館書店 2001年

19世紀イギリスを代表する挿絵画家ランドルフ・コルデコット（コールデコット）が出版した木口木版による多色刷り絵本全16冊の複製版。コルデコットの絵本は近代絵本の基礎となったと評価され、後世の絵本作家に多大な影響を与えた。アメリカでは、優れた絵本に贈られる「コルデコット賞」が1937年に創設された。

国際子ども図書館ホームページ

(<http://www.kodomo.go.jp/gallery/picturebook/index.html>)ではコルデコットの絵本の9作品の画像を、朗読つきで楽しむことができる。

※ セットには、以下の2冊のうち1冊が含まれます。

Hey diddle diddle/Baby bunting

ヘイ・ディドル・ディドル/ベイビー・バンティング

「ヘイ・ディドル・ディドル」は、マザーグースで代表的なナンセンス唄。脚韻が踏まれた6行の唄を、11ページの絵で展開する。絵の細部に注目したい。

「ベイビー・バンティング」もマザーグース。お父さんが狩りに行き、赤ちゃんに着せるウサギの毛皮を手に入れようとする、という唄。これに加え、結局のところ獲物は取れず、毛皮を買って帰る…という作者が考えたユーモラスな結末が描かれている。最後は、ウサギの毛皮を着た赤ちゃんが本物のウサギと対面するという皮肉な場面で終わる。

Sing a song for sixpence

6ペンスの唄をうたおう

マザーグース。本来の'Sing a Song of Sixpence'のofをforに変え、6ペンスで唄をうたおう、と始めている。唄をうたった少女は、もらった6ペンスを農夫に渡し、農夫はそれでライ麦を買う。最後は、もぎ取られた鼻をミソサザイがくっつけた、と手書きで加え、独自の結

末にした。絵の細部に工夫が施してあるので、じっくり見てほしい。

Царевна-лягушка（ロシア語）

かえるの王女

Goznak (Гознак) 1994

ロシアの昔話絵本。同話は『ロシアの昔話』*1にも収められている。絵を手がけたのは、ドイツのユージェント・シュティールとロシアの民間伝承の文化を参考にして、「ビリービン様式」と呼ばれる独自の華麗な画風を生み出したビリービン。彼は20世紀初頭に、当時最良の石版色刷りの印刷技術を持っていた国立印刷所から、『うるわしのワシリーサ』*2『イワン王子と火の鳥と灰色おおかみ』*3など全部で6冊の昔話絵本を出版している。1994年に刊行された本書では、その挿絵部分のみを用いており、初版本の持つ重厚な雰囲気伝えていている。

*1: セットに含まれております。

*2: 「世界を知るセット」(小学校高学年向)に含まれております。

*3: 「ヨーロッパセット」(小学校高学年向)に含まれております。

Laci es az orozslan（ハンガリー語）

Marek Veronika

Mora Konyvkiado 2003

『ラチとらいおん』*の原書。

*: セットに含まれています。

*: 『あおい目のこねこ』または『ラチとらいおん』の原書のどちらかがセットに含まれております。

Mis med de bla ojne（デンマーク語）

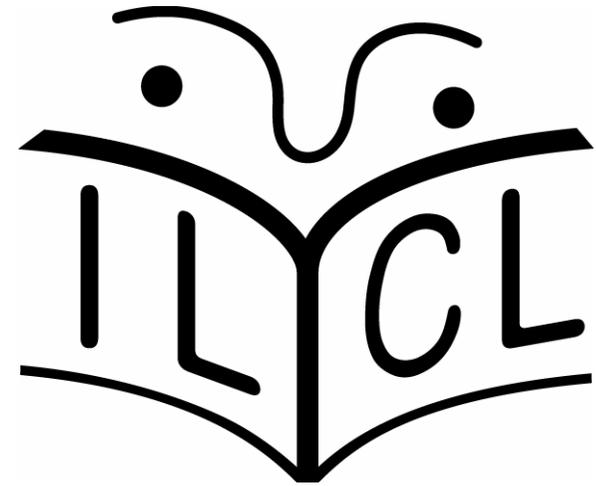
tegninger og tekst af Egon Mathiesen

Gyldendal c1961 (printing 1999)

『あおい目のこねこ』*の原書。

*: セットに含まれています。

*: 『あおい目のこねこ』または『ラチとらいおん』の原書のどちらかがセットに含まれております。



子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く！

国立国会図書館 国際子ども図書館
児童サービス課 企画推進係
〒110-0007
東京都台東区上野公園 12-49
TEL : 03 - 3827 - 2053
URL : <http://www.kodomo.go.jp/>

2007年12月

※この冊子は返却する必要はありません。